

1. 製品名及び会社情報

製品名： 1.0%フェノールフタレイン溶液
 販売元： 株式会社 ウチダテクノ
 住所： 東京都中央区新川 1-10-14 2階
 電話番号： 03-5657-4072
 F A X 番号： 03-5657-4082

2. 危険有害性の要約

GHS 分類：

引火性液体：区分 2
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：区分 2A
 生殖細胞変異原性：区分 1A
 生殖毒性：区分 1A
 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：区分 3（気道刺激性）
 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：区分 3（麻酔作用）
 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：区分 1（肝臓、腎臓、消化管、中枢神経系）
 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：区分 2（神経）

GHS ラベル要素

絵表示：
 注意喚起語



危険

危険有害性情報：

・引火性の高い液体及び蒸気 ・強い眼刺激 ・遺伝性疾患のおそれ
 ・生殖能または胎児への悪影響のおそれ ・呼吸器への刺激のおそれ
 ・眠気又はめまいのおそれ
 ・長期又は反復暴露による臓器の障害（肝臓、腎臓、消化管、中枢神経系）
 ・長期又は反復暴露による臓器の障害のおそれ（神経）

注意書き：

【安全対策】

- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・火災を発生しない工具を使用すること。 ・取り扱い後はよく手を洗うこと。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。 ・熱、火花、裸火、高温のもの等、着火源から遠ざけること。
- ・ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 ・保護手袋および保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。 ・容器および受器を接地すること。
- ・容器を密閉しておくこと。

【応急処置】

4. 応急処置を参照。

【保管】

7. 取り扱い及び保管上の注意を参照。

【廃棄】

13. 廃棄上の注意を参照。

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外または分類できない。

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区分： 混合物

危険有害成分： エタノール

化学名：	フェノールフタレイン	エタノール	水
含有量：	1.0w/v%(約 1.2w/w%)	約 86w/w%	約 12.8w/w%
化学特性（化学式）：	C ₂ OH ₁₄ O ₄	C ₂ H ₅ OH	H ₂ O
分子量：	318.32	46.07	18.01
官報公示整理番号： （化審法・安衛法）	9-1152	2-202	未設定
CAS No.：	77-09-08	64-17-5	7732-18-5

4. 応急措置

吸入した場合：

新鮮な空気の場所に移し、充分にうがいをさせ、安静保温に努めること。

皮膚に付着した場合：

多量の水および石鹸で洗い流すこと。

症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受けること。

眼に入った場合：

清浄な水で最低 15 分以上洗眼したのち、直ちに眼科医の手当てを受けること。

洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がいきわたるように洗淨すること。

飲み込んだ場合：

多量の水又は食塩水を飲ませて吐かせること。異常があれば医師の手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤：

粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火剤、二酸化炭素、砂、霧状水

特有の消火方法：

火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火すること。

消火活動は、可能な限り風上から行うこと。

消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をすること。

特有の危険有害性：

火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム（またはガス）が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用すること。

消火を行う者の保護：

消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避けること。

状況に応じて呼吸保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
 保護具及び緊急時措置

付近の着火源となるものを速やかに取り除くこと。着火した場合に備えて、消火用器材を準備すること。

環境に対する注意事項：	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行うこと。 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止すること。 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにすること。 風上から作業して、風下の人を退避させること。こぼれた場所はすべりやすいために注意すること。
回収、中和：	漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意すること。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意すること。 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収すること。こぼした場所は、ウエス、雑巾等で拭き取ること。
二次災害の防止策：	付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備すること。火花を発生しない安全な用具を使用すること。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策：	火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
注意事項：	容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気を発生させない。 使用後は容器を密閉する。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
安全取扱い注意事項：	吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用すること。 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用すること。 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施すること。 作業衣、作業靴は導電性のものを用いること。
保管	
適切な保管条件：	直射日光や高温を避け、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して保管すること。 換気の良い場所で容器を密閉し保管すること。
技術的対策：	火気厳禁。
混触禁止物質：	強酸化性物質、火源の近くに保管しないこと。
安全な容器包装材料：	ガラス、ポリエチレン

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：	蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、発生源を密閉し、局所排気装置を設置すること。 取扱場所の近くに、目の洗浄および身体洗浄のための設備を設置し、その場所を表示すること。 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施すること。
-------	--

	フェノールフタレイン	エタノール
管理濃度 作業環境評価基準	設定されていない	設定されていない
許容濃度 OSHA PEL： ACGIH TLV(s)： 日本産業衛生学会：	設定されていない 設定されていない 設定されていない	8H TWA 1000ppm, 1900mg/m ³ TWA 1000ppm 設定されていない

保護具	
呼吸器の保護具：	保護マスク
手の保護具：	保護手袋
眼の保護具：	側板付き保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具：	長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

沸点以下のデータはエタノールについて記載する。	
形状：	液体
色：	無色
臭い：	エタノール臭
pH：	データなし
融点：	-117℃
沸点（初留点）：	78.5℃
引火点：	8℃
自然発火温度：	371～427℃
爆発範囲（上限・下限）：	下限; 3.3% 上限; 19%
蒸気圧：	5.33kPa (20℃)
蒸気密度：	1.6 (空気=1)
比重：	データなし
溶解度	
溶媒に対する溶解性：	水、エタノールに混和。
n-オクタノール／ 水分分配係数 log Po/w	-0.32

10. 安定性及び反応性

安定性：	光により変質する。
危険有害反応可能性：	強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件：	日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源
危険有害な分解生成物：	一酸化炭素

1 1. 有害性情報

製剤としてのデータがない為、フェノールフタレイン、エタノールについて記す。

	フェノールフタレイン	エタノール
急性毒性：	経口 ラット LD: >1mg/kg (RTECS) 腹腔 ラット LDLo: 500mg/kg (RTECS)	経口 ラット LD50: 7060mg/kg (RTECS) 経口 マウス LD50: 3450mg/kg (RTECS)
皮膚腐食性・刺激性：	—	皮膚刺激 ウサギ 400mg 軽度 (RTECS)
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	ヒトにおいて、重度の眼瞼の浮腫と結膜の斑状出血との報告がある(HSDB (2004))	目刺激 ウサギ 500mg 重度 (RTECS) 「OECD TG405 および Draize test に従った試験により、moderate と分類されている」(DFGOT (1996))と、また「ヒトで角膜上皮の傷害、結膜充血は 1、2 日間で回復する」(ACGIH (2001))の記載に基づく。
呼吸器感受性又は皮膚感受性：	呼吸器感受性：データなし。 皮膚感受性：ヒトにおいて、皮膚アレルギー性反応を示すとの報告がある。 (HSDB (2004)、IARC 76 (2000))	—
生殖細胞変異原性：	in vitro 復帰変異試験で陰性、in vitro 姉妹染色体交換試験で陰性との報告がある (HSDB (2007))。 in vitro 復帰変異試験で陰性、in vitro 姉妹染色体交換試験で陰性との報告がある (NTP TR465 (1996))。 in vitro 復帰変異試験で陰性、in vitro 姉妹染色体交換試験で陰性との報告がある。 エームス試験および in vitro 姉妹染色分体試験では陰性だが、マウス末梢血での in vivo 小核試験および in vitro 染色体異常試験で陽性である (IARC 76 (2000))。	ラットおよびマウスにおける優性致死の報告およびマウス生殖細胞における異数性誘発の報告 (DFG (1999), IARC(1988))に基づく。
発がん性：	IARC が 2B に分類している。また、NTP が R に分類している (NTP (2005))。	—
IARC：	グループ 2B(ヒトに対して発がん性がある可能性がある)	—
生殖毒性：	マウスの経口投与での生殖毒性試験において、親動物への一般毒性についての記述は無いが、F0 および F1 動物で精巣重量の低下と精子数の減少、妊娠率の低下による出産児数の低下、仔動物の体重減少等が見られたとの報告がある (IARC 76 (2000))。	アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている (DFGOT(1996))。
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)：	—	ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ (ICSC (2000))、急性中毒の場合は死に至ることがある (DFGOT (1996))。また、ヒトで 5000ppm (9.4mg/L)の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす (ACGIH (2001))。
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)：	ヒトにおいて、慢性的に摂取すると腹痛、下痢を伴う消化器系の異状が見られるとの報告がある。また、同様にヒトへの慢性的なばく露により、腎臓、中枢神経系への影響があると報告されている (IARC 76 (2000))。	ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的器官は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る (DFGOT (1996))。また、「アルコール中毒患者の禁断症状 (振戦症状、てんかん、精神錯乱)(HSDB (2003))の記載がある。

1 2. 環境影響情報

生態毒性 魚毒性： データなし
 残留性・分解性： 分解度 (エタノール)： 89 % by BOD (経産省既存化学物質安全性点検)
 生体蓄積性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 焼却法
 スクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却すること。
 これを含む排水は活性汚泥等の処理により清浄してから排出すること。
 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。
 上記方法による処理ができない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。
 汚染容器及び包装： 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分すること。

1 4. 輸送上の注意

国連番号： 1170
 品名： エタノール又はその溶液 (アルコールの含有率が 24 容量%以下の水溶液を除く)
 国連分類： クラス 3 (引火性液体)
 容器等級： PG II
 海洋汚染物質： 非該当
 注意事項： 輸送前に容器の破損、腐し、漏れ等がないことを確認すること。
 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実にすること。
 直射日光を避けること。

1 5. 適用法令

消防法： 危険物第 4 類 アルコール類 (水溶性) 危険等級 2
 毒物及び劇物取締法： 非該当
 労働安全衛生法： 法第 57 条の 2(令第 18 条の 2)名称等を通知すべき有害物 No.61

船舶安全法 (危規則) :	令別表第一の4 危険物 引火性の物
航空法 :	引火性液体
海洋汚染防止法 :	引火性液体
化学物質管理促進法 (PRTR 法) :	施行令別表第1 有害液体物質 Z 類物質 (エタノール) 第二種指定化学物質 No.74 (旧 PRTR 法では非該当品目 H21.9.30 まで)

16. その他の情報

参考文献 :

1. 化審法既存化学物質ハンドブック (第4版) 化学工業日報社 (1986)
2. GHS分類マニュアル GHS関係省庁連絡会議編 (2006)
3. 化学大辞典共立出版 (1991)
4. 安衛法化学物質 (1991)

本データシートは試薬に関する一般的な取扱を主に記載しており、試薬以外としての取扱い及び大量取扱いに関しては考慮されていない場合があります。また、現在での最新の情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正される事があります。記載されている値は、安全な取扱いを確保するための参考情報であり、いかなる保証をなすものではありません。特殊条件下で使用するとき、その場の使用環境に応じて安全対策を実施して下さい。